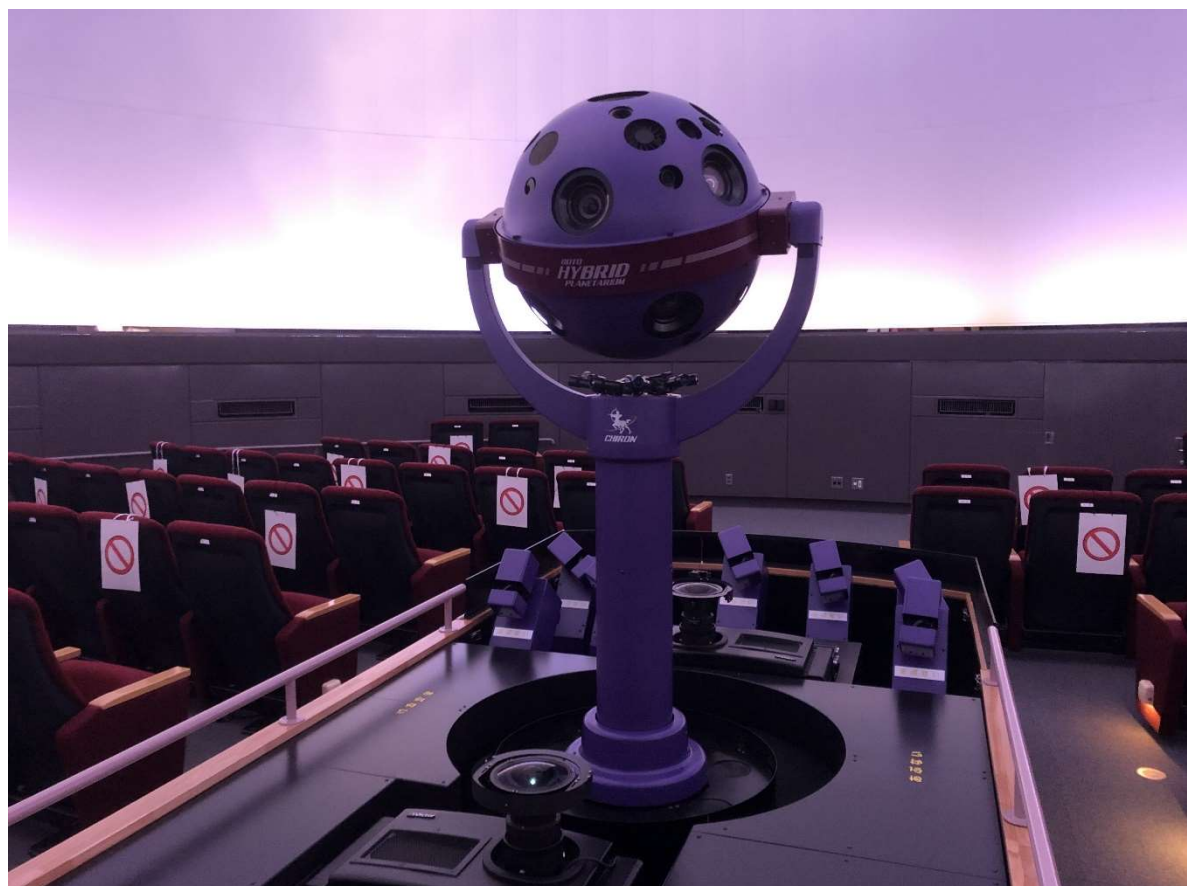




<https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/>

「ざ・ちゅうおう ぶれす」は世田谷区立図書館ホームページでもご覧いただけます

中央図書館プラネタリウム



中央図書館カレンダー

3月							4月							5月							6月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5					1	2	1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30	29	30	31				26	27	28	29	30			

開館時間

火～日 10:00～19:00

月・祝・休日 10:00～17:00

カレンダー■の日

休館日 カレンダー■の日

館内整理日（原則毎月最終木曜日）

特別整理期間（5月20日～25日）

（5月9日は世田谷区立図書館全館休館日です）

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開館日時等が変更になる場合があります。最新の開館状況については、世田谷区立図書館ホームページなどでご確認ください。



世田谷と自然



自然の宝庫 等々力溪谷

今回は、東京23区内唯一の溪谷として知られる等々力溪谷を中心に、区内の“自然”にスポットをあててご紹介したいと思います。

◆等々力溪谷とは

東急大井町線の等々力駅から徒歩約3分にある等々力溪谷公園は、武蔵野台地の南端を谷沢川が侵食してできた、延長約1kmの東京23区内唯一の溪谷です。

溪谷内は樹木が鬱蒼と茂り、川のせせらぎや野鳥の声が聞こえ、溪谷のいたるところから水が湧き出て、豊かな自然に触れることができます。谷沢川にかかるゴルフ橋脇からつづく散策路を下流側に進むと、^{よこあなほ}横穴墓である「等々力溪谷三号横穴」をはじめ、溪谷の南端には日本庭園や書院、桜の名所として知られる等々力不動尊があります。不動尊から溪谷に下りた所には「不動の滝」があり、「等々力」の地名は、この滝の音が響き渡り「轟いた」ところからついたとの言い伝えがあります。



等々力溪谷

■参考文献■

『等々力溪谷』

世田谷区みどり33推進担当部公園緑地課
玉川公園管理事務所, 2019年

『私のオアシス等々力溪谷』

西山貞子[著], 文芸社, 2015年

『東京湧水探訪—等々力溪谷、深大寺、はけの道など44コース—』
百瀬千秋 著, けやき出版, 1995年

◆湧き水

等々力溪谷を構成する谷沢川は、上用賀六丁目付近を水源とし、用賀・中町を貫流します。そして等々力駅付近から溪谷の様相を呈しはじめ、溪谷内で不動の滝も合わさり、その後一部が丸子川へ、残りは多摩川へと流れていきます。

また、等々力溪谷には約30箇所以上の湧水が発生し、この湧水は東京都により2003年に「東京の名湧水57選」に選定されています。



不動の滝

◆植生

等々力溪谷では、大径木(幹の直径が大きい木)が溪谷の斜面に沿って自生しています。主としてシラカシやケヤキ、ムクノキであり、斜面地上部や台地面にはイヌシデやコナラが多く分布しています。また、湧水が流下する緩やかな斜面にはセキショウが生い茂り、湧水が溜まる場所には湿地植物が点在しています。

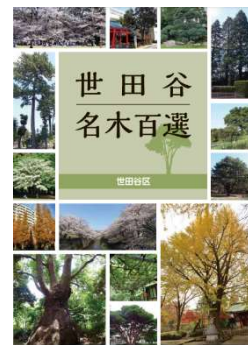
◆生物

等々力溪谷には、数多くの生物が生息しています。令和2年度魚類調査結果によりますと、23種の魚類が確認され、代表的なものとして、オイカワ、ミナミメダカ、カワムツなどが生息しています。鳥類はオナガ、シジュウカラ、コゲラ、ヒヨドリ、キセキレイといった鳥が見られます。動物はアライグマやハクビシン、昆虫はナガサキアゲハ、ニホンミツバチ、オンブバッタ、シオカラトンボなど豊富な生態が見られます。

世田谷名木百選

世田谷区では、昭和61年度に世田谷区のみどりを特徴づける大木や、由緒・伝統のある木、変わった形の樹木など計148件を名木百選として選定しました。しかし、選定から30年以上が経過し、名木を取り巻く状況も変化して、惜しまれつつ姿を消してしまった木もあることから、新たな世田谷名木百選を選定することになりました。

平成30年8月に第1回目の選定委員会が開催され、計6回の開催を経て令和2年に新たな名木百選が決まりました。これは、昭和61年度の名木から再選定された95件に、区民の方々からお寄せいただいた候補の中から選定された55件を加えたものです。『世田谷名木百選』(世田谷区みどり33推進担当部みどり政策課編)には、選定された樹木についての由来や見どころなどが詳しく書かれています。また、昭和61年度に選定された名木が掲載されている『世田谷名木百選』(世田谷区生活環境部みどりの課)も中央図書館でご覧いただけます。



名木巡りをしませんか 名木をめぐるおすすめコース等を記載したマップ版もあります

春といえばお花見の季節、名木百選を片手に名木巡りはいかがでしょうか。次の施設で配布しています。

【配布場所】 区政情報センター・区政情報コーナー、まちづくりセンター、みどり政策課

世界最高クラス！1億4000万個の星！ 世田谷区立 中央図書館プラネタリウム

中央図書館と同じ建物内にある「中央図書館プラネタリウム」は、1988年にオープンした施設で、今年で34年目を迎えます。2010年に世界最高クラスの1億4千万個の星を映す最新式の機械を導入、2021年にはプラネタリウムを動かすシステムもバージョンアップし、様々な宇宙の映像について、さらに本物に近い描写が可能になりました。

投影の種類も豊富で、小さなお子さまがいる家族向けの「ちびっこタイム」や、子どもから大人まで楽しめる「一般向け投影」、他にも「大人のための星空散歩」、「星空 CD コンサート」といった特別投影もあります。

週末に中央図書館を利用する際は、ぜひプラネタリウムもご利用ください。



プラネタリウムの星空



3月の一般向け投影

中央図書館プラネタリウムでは、この最新式の機械を操作しながら、専門の解説員が星や星座などの話題を紹介しています。原稿を読むのではなく、お客さまの様子を見ながら、話題を選び、当日の星空を紹介しています。

詳細はホームページでもご案内しています

<https://www.city.setagaya.lg.jp/mokuji/kusei/012/011/002/d00007490.html>

投影日 土・日曜日・祝日、区立小中学校の長期休業期間など
※第3日曜日、年末年始を除く

①午前11時～②午後1時30分～③午後3時30分～
(途中入退場はできません)

観覧料(一般投影): 観覧券は当日午前9時から販売します
大人(高校生以上) 400円
こども(小・中学生) 平日 100円(土日祝は無料)
幼児(小学生未満) 無料

文字・活字文化の日記念講演会 「本と雑誌 迷宮の世界」

エッセイストとして活躍されている宮田珠己さんをお招きし、“読めば面白くて引き込まれる雑誌”や“ほっとできる本”を中心に、雑誌と本の奥深い世界を語っていただきました。

雑誌の紹介では通常の書店で取り扱っていないマニアックな雑誌をたくさん紹介していただきました。例えば、雑誌『ワンダーJAPON』（スタンダード）。元は『ワンダーJAPAN』という名前で発行されていましたが、のちに休刊。どうしても続けたいと考えた編集者が名前を変えて別の出版社で復刻したそうです。

後半の本の紹介では「旅行」「散歩」「幻想」などジャンルごとに多くの本を紹介していただきました。

紹介していただいた本は世田谷区立図書館ホームページでご覧いただけます。皆さんにとって未知なるジャンルの本を読んで、読書の幅を広げてみませんか。

令和3年10月16日開催



雑誌や本について語る 宮田珠己さん

宮田さんが紹介した本についてはこちらをご覧ください
<https://libweb.city.setagaya.tokyo.jp/main/0000004942/article.html>

図書館コンサート「マジックと音楽と絵本のコンサート」

赤ちゃんからご年配の方まで、総計700名を超える応募をいただいた図書館コンサート。パフォーマンスを披露してくださったのは、マジシャンや演奏家として活躍するだけでなく、絵本「ねこのピート」シリーズ（ひさかたチャイルド）などの翻訳を手掛けた大友剛さんです。

当日は目を見張るようなイリュージョンで、皆の目をくぎ付けにするところから始まり、「パプリカ」や「檸檬」などのJ-POPに加え、「少年時代」などの懐かしの名曲まで多様なレパートリーを演奏していただきました。

アンケートでも「とてもすてきな心温まる時間だった」、「久しぶりにワクワクした気持ちになれた」など絶賛する声を多数いただきました。 令和3年11月6日開催



ピアノカとピアノを演奏する 大友剛さん

学びのプレゼン講座「自分で調べる技術」

NPO法人市民科学研究室代表理事の上田昌文さんをお招きし、みなさんからいただいた「今調べたいこと、気になること」をもとに調べ方のコツや調べたいテーマの的の絞り方などを教えていただきました。



みなさんの調べたいことにコメントする 上田昌文さん

参加者を4～5人のグループに分け、調べたいテーマを共有し、なぜ調べたいのか、本当に調べたいことは何なのかなど、話し合っって明確にしました。

疑問を持つきっかけには2つの源泉があるとお話がありました。驚きの体験に代表されるような「不思議のなぜ？」と、被害や理不尽な目にあったときの「納得いかないのなぜ？」。これらは科学的発見や政治的変革につながり、世界を変える力になるそうです。

自然と話が弾み、参加者からの質問も多く、非常に盛り上がる講演会・ワークショップとなりました。

令和3年12月12日開催

世田谷区子ども読書活動推進フォーラム

「情報の海を冒険しよう」

本フォーラムは、子どもの読書に関わる人たちが情報・意見交換をし、交流を深めることを目的として開催しています。16回目となる今回は、GIGAスクールをテーマとし、第一部では、中央図書館の會田館長より世田谷区のGIGAスクール構想と状況について説明し、第二部では、『こども六法』（弘文堂）や『ネット・スマホ攻略術』（講談社）の著者であり、教育研究者、慶應義塾大学SFC研究所所員、ミュージカル俳優など幅広い分野でご活躍されている山崎聡一郎さんをお招きしました。「学校の勉強はなんのためにするのか?」、「インターネット等で情報があふれている現代における図書館の活用方法」など、ご自身の実体験も含め、お話してくださいました。

講義は、直接会場での参加のほか、オンライン配信による参加を、図書館で初めて実施しました。

本フォーラムの内容は、図書館ホームページまたは報告誌も作成しておりますので、ぜひご覧ください。

令和3年10月30日開催



情報との付き合い方について語る 山崎聡一郎さん

図書館活用講座（中級編）

「辞書があると、読書は楽しい。」



辞書が読書を楽しむ
飯間浩明さん

辞書編さん者の飯間浩明さんをお招きしました。飯間さんの最近の読書のお話から始まり、それぞれの国語辞典の個性や特徴、辞書編さんの苦勞などのお話がありました。続いて、飯間さんの本の読み方を、1冊の本を取り上げ、その本の文章から飯間さんが気になった言葉をいくつか辞書をひきながら紹介してくださいました。これらの言葉には、一見違和感がないのに辞書にはまだ載ってなかったり、これまでとは違う使い方であったりする言葉があり、いままで気づかなかった発見がありました。最後に「億劫がらずに辞書を引くことで辞書が読書を楽しんでくれます。ぜひお気に入りの『マイ辞書』を持ってください。」とのメッセージをいただきました。

令和3年12月4日開催

世田谷区家庭読書の日記念講演会

「読む力が未来をひらく」



脇明子さん

児童文学翻訳家・評論家の脇明子さんをお招きして「読書によってどうして思考力等が養われるのか」「どのように自分をコントロールする力が育っていくのか」について、子どもの成長の過程をたくさんの事例とともにお話いただきました。

特に、絵本の読み聞かせから児童文学作品へ移行するための読書支援については、学校司書やボランティア活動をされている方々も日ごろから悩んでいるケースが多く、そのヒントになる手法も色々紹介していただきました。参加者のみなさんが、メモをとりながら熱心に聞き入っている様子が印象的でした。

令和3年11月27日開催



毎月23日は
世田谷区家庭読書の日

みんなで読書を楽しもう

世田谷区立図書館 障害者サービス ご案内

録音(デイジー)図書と声の職人・音訳ボランティア

世田谷区立図書館では、音訳ボランティアの協力により「録音(デイジー)図書」を製作しています。これは、音声に加えて目次・見出しの情報を記録しており、読みたい章に簡単に飛べる機能がついているのが特徴で、パソコンやタブレット、専用の再生機器で聴くことができます。世田谷区内にお住まいの、通常の活字資料のままでは読むことが困難な方(目の不自由な方、ページをめくることができない方、読むことに障害がある方など)で、障害者サービス登録をした方がご利用いただけます。また、他自治体が作成した録音(デイジー)図書を取り寄せることもできます。

音訳は朗読とは異なり、著者の意図を尊重し、聞き手が内容を理解しやすいことをめざします。アクセント、固有名詞などは事前に調査し、声の高低、間(ま)、スピードを工夫して何度か下読みして録音し、さらに別の人が校正を行います。時間も手間も技術も必要とされる、非常に高度で緻密な作業です。

声の職人・音訳ボランティア 匠の技の一部を紹介します

美しく装丁された本の箱と表紙も音訳ボランティアによって声で表現されます。



箱



表紙

『風：竹久夢二童謡集』竹久夢二著 研究社 1926年
(竹久夢二伊香保記念館 所蔵)

■箱の説明■ 左上から右下に曲線が引かれ、さらに同じく左上から下に2本の曲線も引かれています。この3本の曲線によってできた部分は右から杏色(くすんだ黄赤)、ややくすんだ朱色、群青色(紫がかかった青)の3色に塗り分けられています。ここ以外の部分(右上の部分)には不規則な横向きの線が複数引かれ、その上に「童謡の本」と大きな字で書かれています。右下には右から研究社と書かれています。背には縦に「夢二・風」と書かれています。

■表紙の説明■ 表紙・裏表紙ともに地の色はややくすんだ朱色です。表表紙には一面を使って、切り絵のような大胆な漢字一文字で「風」と杏色で書かれています。裏表紙にはやはり一面を使い、風の骨組みが杏色で描かれています。(または「細い線で四角い風の絵がシンプルに描かれています。」)



『日本橋』泉鏡花著,千草館,1914年9月
菊版/厚紙装/小村雪岱装幀/初版本
(写真提供:泉鏡花記念館)

明治の文豪、泉鏡花の「鏡花本」。色彩豊かな表紙絵や口絵・見返しが目にも鮮やかで、美しい装丁です。例えば次のように音訳できます。

「表表紙・裏表紙見開きで、並び蔵が軒を連ね無数の蝶が舞う 隅田川両岸が描かれています。蔵にはそれぞれの家印が示されています。

河上には手漕ぎ船が何艘も行き交っています。」

音訳ボランティア講座(中級)を実施しました

今年度は成毛由紀子さんを講師としてお招きし、既にボランティアとして取り組んでいる方が、更に良い音訳をめざすための「音訳ボランティア講座(中級)」を実施しました。

令和4年度は、世田谷区でこれから音訳ボランティアをやりたい方を対象とした初級講座を予定しています。

すてきなタータンチェック

奥田実紀 文 穂積和夫 絵 福音館書店

幼いころからチェック柄が大好きだった著者。24歳で留学したカナダのプリンス・エドワード島で、美しいタータンチェックの布地に出会います。チェックはイギリスに関係のある柄、という漠然としたイメージを持っていた著者は、なぜカナダにタータンチェックがあるのか、さっそく島の図書館で調べ始めました。



ところが、調べるほど新たな疑問がわいてきます。そもそも「タータンチェック」の定義はどのようなものなのか、現地の人に直接尋ねるため、タータンの民族衣装で知られるスコットランドを訪れました。

本書は児童向けに書かれていますが、著者の調査結果に基づく解説は、大人でも読みごたえがあります。あたたかみのある挿絵で民族衣装へのイメージも膨らみます。 【請求記号 J59 桃】

生活道具の文化誌

一日用品から大型調度品まで一

エイミー・アザリット 著 大間知知子 訳 原書房

人々は生活を送る上で、より便利な道具やくつろげる部屋が欲しいと考えています。例えば、食卓に並ぶ皿は元々パンで作られていましたが、現在は陶器やプラスチック製のものが主流となっています。人々の欲求を原点として、道具は変化を遂げているのです。



この本では、私たちが当たり前のように使い、慣れ親しんでいる家庭の道具の歴史をイラスト付きで紹介しています。さらに、道具に関する豆知識や雑学、著名人の名言、世界各国の著作から引用された文章も掲載されています。著者が約6年かけて200冊の図書を参考にして調べた内容となり、各道具を詳しく説明しています。調べものにも役立つでしょう。 【請求記号 3839 あ】

新着図書案内

きのこ図鑑

一道端から奥山まで。採って食べて楽しむ菌活—
牛島秀爾 著 つり人社

きのこは「怖い」、「毒きのこ」というマイナスなイメージもあるようですが、色や形の「美しいもの」、「珍しいもの」、「美味しいもの」、「栄養のあるもの」も多くあり、様々な魅力が詰まっています。かつては下等な植物のグループの1つとされていましたが、現在ではきのこは植物、動物と並ぶ第3の生物群の菌類に属するものと考えられ、なんと近年の研究によれば菌類・きのこは植物より動物に近いことが明らかになっています。



この本では、きのこ採りの心得や装備、マナーやルール、持っている便利な道具についても学ぶことができます。さらには採れたてのきのこで簡単に作れる料理も紹介しています。くれぐれも、きのこによる食中毒、遭難、危険植物などには注意していただき、楽しい菌活を模索していただければと思います。 【請求記号 6578 う】

花は咲けども噺せども

—神様がくれた高座—
立川談慶 著 PHP研究所

落語家立川談志の弟子である著者が自身の実体験などをベースに書いた、「立川談志」の落語に魅せられた青年落語家を主人公とした小説です。7年の前座修行ののち、やっと二つ目になった錦之助。食えない日々が続いていたが声がかかれば、たとえ寒空の下でもサウナの中でも、がむしゃらに高座に上がり続けます。



小児病棟の小6太一との落語会、老人ホームの元芸者お時さんの都々逸指南、末期ガン患者工藤さんの前での独演会、売れっ子落語家の穴埋めで行った中学校の悪ガキとのやり取りなど、錦之助を応援してくれる人たちとの色々なふれあいを通して錦之助は落語家として成長していきます。笑いあり涙ありでほっこりするお話です。落語の演目も数多く出てきます。 【請求記号 B1 たた】



Information from Setagaya Central Library

図書館からのお知らせ♪



子ども読書の日記念講演会 絵本はどこから生まれてくるの

『ルラルさんのにわ』(ポプラ社)や『おさるのまいにち』(講談社)などの著作で知られる、いとうひろし氏をお迎えして、絵本作りについてお話していただきます。



いとうひろし氏

日時 4月23日(土) 午後2時～3時30分
会場 教育会館(中央図書館)3階「ぎんが」
講師 いとうひろし氏(絵本作家)
対象 小学生から大人まで(区内在住)
申込 4月1日(金)～4月10日(日) 抽選50名
 ※詳細は「区のおしらせ4月1日号」をご覧ください

なぜ?なに?大はっけん!! かがくのおはなし会

子ども読書の日を記念して「かがくのおはなし会」を開催します。身近な自然を題材にした「科学えほん」の読み聞かせや、簡単にできる実験など盛り沢山の内容です。



日時 4月30日(土) 午後3時～3時40分
会場 教育会館(中央図書館)3階「ぎんが」
対象 小学生から
 ※小学生未満の方は保護者同伴でご参加ください
申込 当日先着20名まで
 ※申し込みは不要です。当日会場にお越しください

学びのプレゼン特別企画 区民の皆様が作成した



作品展示しました

中央図書館では区民の皆様が作成したPOP(ポップ)を1月下旬まで展示しました。これは、学びのプレゼン特別企画「おすすめ本の紹介POP作品大募集」として昨年秋に募集した作品の中から、51作品を選び展示したものです。応募していただいた作品は、どれも創意工夫にあふれ、お気に入りの本を見つけた時の感動や喜びを、文章やキャッチフレーズ、イラストなど様々な形で表現されたものでした。展示期間中は多くの方が足を止められ、熱心にPOPをご覧になり、この本を読んでみたいとの声も多く聞かれました。

POP(ポップ)とは? 「Point of purchase advertising」(購買時点広告)の頭文字から取った略語です。スーパーマーケットや、書店など小売店の店頭プロモーションとして商品の近くに置かれている紙の広告です。

POPは、紙に商品名、価格、キャッチコピーや簡単な説明文などを手描きしたもので作り方は簡単です。しかし、イラストや形など様々な工夫をすることができ、作り手の個性や雰囲気が出せる魅力的なものです。

図書館や学校では、POPを使って本の紹介をすることが増えています。



編集後記

記事の編集にあたり、先日、人生で初めてのプラネタリウムを体験しました。中央図書館上空に広がる夜空が鮮やかに再現されており、解説者の説明はソフトかつ丁寧で、とても勉強になりました。これをきっかけに星や宇宙に関する本なども読んでみたいと思います。一度見た後でも、知識を身につけてからもう一度体験することで、また別の楽しみ方、発見ができるのではないかと、プラネタリウムのそんな楽しみ方を実感した気がします。皆様もぜひ中央図書館のプラネタリウムをご体験ください。【I.T.】